

第491回 7月27日開催
出席委員(50音順・敬称略)

荒巻 裕	大村 英昭
木下 明美	倉光 弘己
黒田 勇	櫻井 美幸
森 輝彦	

テレビ番組「あん!」

7月27日(金)午前7時25分頃~8時22分 放送分

委員の主な意見

- * TBS「ウオッチ!」の部分的なローカル差し替え番組ということだが、関西のスケッチのコーナーなど新味があって面白い。ただネットに戻るつなぎの部分で違和感が残った。
ゲストのオール巨人さんはコメントが適切、シャープである。
 - * 兄弟番組の「ちちんぷいぷい」と同じところが随所に出てきて、安心して見られる。抜け出す努力も部分的に始めてみないと、ミニ版になると魅力が薄れる。おざなりの話題の紹介ではなく、もっとつつこんだ企画や取材を。
 - * 朝はさまざまな情報をテンポよく伝えてくれる番組の方がよいが、わいわい言いながらのんびり過ごそうという雰囲気番組が、一つあってもいいのかも知れない。
毎日放送全体をとにかく「ちちんぷいぷい」的にしてしまっ、そこまでやった上で新しいものをやるというのもひとつの手かなと思う。
 - * 朝、みんながバタバタしている時に、ちょっとタイミングをずらしたような、のんびりしたところがある。それがかえって安心感というか、いやしというか、そういう意味でいい。
 - * 和気あいあいとか、ほんわかとした雰囲気を「ぷいぷい」から上手に継承しているが、もう少し番組の個性がほしい。より日常に密着した情報や、朝刊にも載っていない新鮮な情報を。
 - * スピード感には欠けるが、全体としてはとりあえず成功している。パーソナリティの上泉、八木のコンビは画面から受ける感じがいい。期待が持てる。
 - * 「ちちんぷいぷい」「知っとこ!」「せやねん!」というMBSの情報系番組が持つ特性、これは戦術ではなく、戦略的レベルに来ている。関西人が受け入れてくれる、ソフトで安心して見られる番組作り。その延長線上に「あん!」を持ってきたのは的確だ。
「あん!」独自の特性をどのように出し、差別化を図るのが課題だ。
- 6月に行われたラジオの夏季聴取率調査の結果について、ラジオ局長が報告した。
7月の参議院選挙特番について、MBSがNHKをおさえ在阪首位の視聴率を得たことを、編成局長が報告した。

* 意義の高いドキュメンタリーだが、部落の歌であると世に知れたとたん放送メディアから姿を消してしまう、そここのところの信憑性について、また最初で大ヒットしたときから今日までの推移について、時の当事者たちへのヒアリングなり、検討があったほうがよかったのではないか。メディア側の自主規制なら、なぜ自主規制する必要があったのか。

* 逆説的な言い方になるが、差別は放送にとっては資源だ。関西はものすごい歴史を抱えているわけで、部落差別やいろんな差別があるということをもうちょっと突き放してみて、考えて、ドキュメンタリーやドラマができる。放送事業、放送文化にとって貴重な資源だと思う。

* 初めから人権の枠ということで作ろうとしたように感じられ、このドキュメンタリーの構成上少しネックになっていると思う。

女の人の手仕事、歌と、人権が、あまりにも密にはっきり解説されすぎたがゆえに、ちょっと構えてしまっている制作側のスタンスがあるように感じた。

* この番組は非常に優れているが、一方で非常に重苦しい。この重苦しさは何とかならないものか。扱っている題材は深刻な問題だが、番組名は「語り継ぐ歌声」となっており、このテーマからいくと、もっと音楽が前に出てきてもいい。主題の曲である「竹田の子守歌」は単音階で単純なメロディーの曲なのだから、工夫をして、もっとめりはりのある扱い方が欲しかった。

* 歌の力によって、部落差別を追体験できる。部落差別は最も性質の悪い差別であり、おばあちゃんたちの証言を、ちゃんと聞くことで繰り返し、何度も確認すべきことである。

難しいテーマを説教臭くせず、悲壮感も漂わせず、さらりとまとめたのは良かった。繰り返し取り上げられるべきテーマである。

「オーサカキング」の報告

MBSの今年の3大テーマの一つで、メインテーマに「もっと大阪を」を掲げ、地元の文化や経済と連動し大阪の活性化のため、さまざまイベントを展開、また特番を組むことなどを、石橋専務が報告した。